



第62号

発行
山辺地区社会福祉協議会
事務局
山辺公民館内
TEL 0284(71)0516

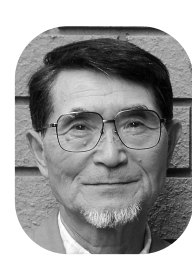
- すなおな心 (はい)
- 反省の心 (すみません)
- 謙虚な心 (おかげさま)
- 奉仕の心 (私がします)
- 感謝の心 (ありがとう)
- 山辺地区日常五心



渡邊美智子さん(堀込町) 老人給食ボランティア23年、現在も調理学実務の第一線で活躍中。

又、大正琴の「琴聖会」を主宰し、

本市では平成11年に福祉都市宣言がなされ、すべての人が相互の信頼と連帯を基本に、関係機関との連携を深め、ボランティア精神を発揮して、共に理解しあい支えあえる福祉社会実現の取り組みに参加することを確認、人にやさしいまちづくりと心身の「健幸」づくりを努める本年の大会宣言を採択し、功労者表彰が実施された。



新江義夫さん(堀込町) 地区社協理事として事務局入りし11年、多岐に亘る事務局業務を補佐してきている。

福社ボランティア育成事業では委員長を務めている。大会の始めは宣言文にある「健幸」づくりのPRも含め会場全体での元氣アップ体操。今年度新登録したサポーター達が舞台上に出て会場をリードし和やかな雰



清水弘子さん(堀込町) 民生委員19年の豊富な経験を生かし老人給食ボランティアへ参加して14年、現在委員長として会運営の充実・円滑化に頑張っている。

足利市社会福祉協議会長表彰

地区内外施設訪問の福祉ボランティアとしても活躍中。

足利市社会福祉協議会長表彰

「地域福祉功労」

第23回

福祉大会 人にやさしいまちづくりを

今年も地域福祉功労者を3名受賞

本年度の足利市民福祉大会が11月11日、市と市社協等7つの福祉団体の主催、自治連等10団体の後援でブラザにて開催された。



センター設立の訓練中。次の手順は？

災害ボランティア講座 センター設置訓練にも参加

平成30年を表す漢字は「災」であった。毎年各地での災害が発生しているが、ここ足利の地は自然災害が少なく、まことにありがたい。が、それは偶然のなせる業なのかも知れない。嘗ての力スリーン台風時の如く、いつ何時、大災害が襲うかも知れない。それに備えての講座・研修が今年も各所で行われた。

市社協主催の災害ボランティア講座は、ここ数年市内の防災リーダー層の研修指導に当たっているNPOの李仁鉄氏の、「災害ボランティアをやる上での心得」と「ボランティアが効果的

に働けるように統括管理していくボランティアセンターの機能・役割・運営の実際」について午前一杯研修した。

た藤姓足利氏の滅亡で逆転し、義兼は足利庄の領主となった。義兼時代が始まった足利庄中心地への拠点造りも義兼の活躍で拍車がかかり、山辺源氏屋敷からは連日多勢の職工達が通り、広大な武家屋敷を造り上げ、移転し、「山辺源氏」は名実共に「足利源氏」となったのである。

(以下次号へ)

第16回 山辺の今昔譚 山辺の文化遺産に 寄せて

山辺賢人子

「山辺から足利源氏へ」

八幡山を中心とするこの微高台地は古墳群も残されている様に豊かな自然環境と共に人が定着する条件には恵まれていたが、頻りに襲う渡良瀬川の洪水には悩まされたものと思われる。

この頃の足利庄の領主は藤原秀郷の後裔・藤姓足利氏であり、後発の源氏は山辺から南東部にかけてが支配地の、言わば「山辺源氏」であったが、勢力争いは避け難かつたであろう。



現在の足利源氏屋敷・鏝阿寺、右は足利学校

敬老事業の補助金対象者

本年より1年に1歳ずつ繰り上げ 103歳に80才以上に 今後の財政状況や国の全世代型社会保障制度の導入で、市として見直すこととなった。尚、敬老会の招待者年齢や開催方法は実施団体が独自に決められる方向。



個々の楽器が個性を発揮しながら調和のとれた心地よい音楽に。ロス・クアトロ・ペスカドーレス! ブラボー!

この地で生活する南米からの子供達に平和と安らぎを共有してもらいたいと始めて25年、感動溢れる7曲の舞台だった。

第2部のアトラクションは男性4人グループ「ロス・クアトロ・ペスカドーレス」によるラテン音楽の演奏。